

長野市ため池群におけるシナイモツゴの分布調査と モニタリングサイトの選別

中野 繭^{1, 2}・中島法子¹・小林和子¹・古賀和人^{1, 3}

(¹ ぽんすけ育成会, ² 信州大学理学部, ³ 長野市立戸隠地質化石博物館)

長野県のシナイモツゴ *Pseudorasbora pumila* は、中山間地のため池群に生息している。ため池数は数百にも及び、大半は個人管理される小規模な素掘りのため池である。近年、過疎や離農の影響により放棄されるため池が増加し、各所で湿地化が進行している。シナイモツゴの生息する池が複数あるため、1ヶ所を対象とした重点的な保全体制を取れないことが本生息地の課題となっている。そこで、各生息池の保全優先度を求め、優先的にモニタリングすべきサイトを選別することを本研究の目的とした。

調査は2018年4月～8月に36ヶ所のため池を対象に実施した。シナイモツゴと外来種（アメリカザリガニ、ウシガエル、コイ、および、ソウギョ等）の生息状況、および、ため池の管理状況を記録した。ため池の保全の緊急性と重要性をスコア化し、保全優先度を推定し、モニタリングサイトの選別を実施した。調査はすべて地域住民と一緒に実施した。

過去の調査（1997～2010年）でシナイモツゴが捕獲された33ヶ所のうち、今回も生息が確認されたため池は27ヶ所であった。シナイモツゴが確認されなかったため池のうち1ヶ所は放棄による湿地化が進行していた。一方で新たに2ヶ所のため池でシナイモツゴが発見され、生息池は合計29ヶ所（2018年）となった。外来種は9ヶ所で捕獲された。最優先モニタリングサイトには2ヶ所が選別された。今後、



写真 調査の様子

在来・外来種数や個体数にも着目しながら、在来生態系の記録、管理、および、再生に資する情報を蓄積したい。